

令和4年12月22日

令和4年
第7回野洲市議会定例会
修正議案書

野洲市議会

議第104号修正議案

議第104号 令和4年度野洲市一般会計補正予算(第12号)に対する修正案

上記の議案を提出する。

令和4年12月22日

提出者 野洲市議会議員 益川 教智

賛成者 野洲市議会議員 岩井 智恵子

賛成者 野洲市議会議員 鈴木 市朗

賛成者 野洲市議会議員 橋 俊明

賛成者 野洲市議会議員 山崎 敦志

賛成者 野洲市議会議員 東郷 克己

議第104号 令和4年度野洲市一般会計補正予算(第12号)に対する
修正案

議第104号 令和4年度野洲市一般会計補正予算(第12号)の一部を次の
ように修正する。

第3表中、野洲駅南口複合商業施設整備事業支援業務について、以下のとおり
削除する。

第3表 債務負担行為補正

追 加

事 項	期 間	限 度 額
野洲駅南口複合商業施設整備事業支援業務	令和4年度から 令和5年度まで	19,000千円
一級河川中ノ池川フラップゲート 改修工事設計業務	令和4年度から 令和5年度まで	4,000千円

議第110号修正議案

議第110号 令和4年度野洲市病院事業会計補正予算(第4号)に対する修正案

上記の議案を提出する。

令和4年12月22日

提出者 野洲市議会議員 橋 俊明

賛成者 野洲市議会議員 岩井 智恵子

賛成者 野洲市議会議員 鈴木 市朗

賛成者 野洲市議会議員 益川 教智

議第110号 令和4年度野洲市病院事業会計補正予算(第4号)に対する修正案

議第110号 令和4年度野洲市病院事業会計補正予算(第4号)の一部を次のように修正する。

第4条を削除する。

令和4年12月22日

令和4年
第7回野洲市議会定例会
修正議案 関係資料

野洲市議会

議第104号に対する修正案関係資料

修正理由

本補正予算において、野洲駅南口複合商業施設整備事業支援業務に係る債務負担行為の追加が挙げられている。野洲駅南口の開発については、野洲駅南口周辺整備構想が策定されており、「心と体の健康をテーマに人と人がつながることで生まれるにぎわいづくり」というコンセプトの中で、新病院はヘルスケアパークなど健康増進を目指す機能を合わせ持った、構想の中核となる必要不可欠な要素であった。

しかし今回、市は温水プール跡地での病院整備を進めるという方針を立て、空いた駅前の病院用地をにぎわいづくりのスペースとして活用するということが、あまりに拙速な進め方であると言わざるを得ない。現在、本市は行財政改革の一環として、文化3施設の統廃合を検討しており、そのうちの2つの施設が駅前に立地している。また、平成27年に構想が策定されて以降、約7年が経過しており、その間にコロナウイルスという今まで経験したことのない状況に直面し、我々の生活様式は大きく変わった。

よって、本市の顔ともいえるべき駅前をどのように整備するかは、改めてしっかりと議論を尽くしたうえで進めるべきであり、このように性急な進め方は厳に慎むべきである。

以上のことから、修正案を提出する。

議第110号に対する修正案関係資料

修正理由

本補正予算において、野洲市民病院整備準備事業に係る債務負担行為の追加が挙げられている。

しかし、現在予定されている温水プール跡地の整備については、軟弱地盤や高压線より発生する電磁波への対策など、事業費の上昇が予想され、運営面においても、郊外での持続可能な経営が成立するか、疑問がある。

また、病棟の機能として、維持期病棟を障害者病棟とするのか、医療療養病棟とするのかは今後検討するとしている。しかし、この二つの病棟は、その機能として大きく異なるものであり、本来であれば基本構想・基本計画において決定されているべきものである。

さらに、地域医療を最前線で担っている守山野洲医師会は、駅前整備の要望書を提出するとともに、意見広告として、病院の駅前整備の重要性を訴えるとともに、温水プール跡地に対する懸念事項を示すなど、一貫して現在の計画に対する反対を表明している。医師会は市民の健康を守る極めて重要なパートナーである。その医師会の意見を無視したまま病院整備事業を進めていけば、新病院整備後の医療連携において大きな支障をきたすことは明らかである。

このような現状において、温水プール跡地での整備を前提とする準備事業の着手は、今後の持続可能な地域医療の確保という観点から認めることはできない。

以上のことから、修正案を提出する。

【参考】

債務負担行為に関する調書

(単位:千円)

事項	限度額	前年度末までの 支払義務発生額		当該年度以降の 支払義務発生予定額		左の財源内訳		
		期間	金額	期間	金額	企業債	他会計出資金	建設改良積立金
野洲市民病院 整備準備事業	93,000	—	—	令和5年度 まで	93,000	0	46,500	46,500